

世界旅ガール、

70億人と友だちになる

中鉢明子

笑顔と
度胸の
「規格外」
旅行記



界旅ガール、
億人と友だちになる
と度胸の「規格外」旅行記
鉢明子

宮州大学図書館
蔵書章



中鉢明子(ちゅうばち・あきこ)

1982年神奈川県生まれ。玉川大学文学部教育学
科卒業。小学校教諭第一種取得。在学中にデンマ
ークに留学。2007年ミスユニバース・ジャパン3位。
その年から芸能活動を開始し、テレビドラマ「和田
アキ子物語」の主演で女優デビュー。2010年には
「和田アキ子物語」の舞台も務め、今後さらなる活
躍が期待されている。中鉢明子オフィシャルブログ
「SAFARI」 <http://ameblo.jp/akiko-chubachi/>

世界旅ガール、70億人と友だちになる
笑顔と度胸の「規格外」旅行記

2011年3月24日 第1刷発行

著 者 中鉢明子

発 行 者 石崎 孟

発 行 所 株式会社マガジンハウス

〒104-8003 東京都中央区銀座3-13-10

電話 受注センター 049-275-1811

書籍編集部 03-3545-7030

印刷・製本所 凸版印刷株式会社

乱丁・落丁本は小社製作部宛にお送りください。

送料小社負担でお取り替えいたします。

定価はカバーと帯に表示してあります。

<http://magazineworld.jp/>

©2011 Akiko Chubachi, Printed in Japan

ISBN978-4-8387-2235-8 C0095

世界旅ガール、70億人と友だちになる

笑顔と度胸の「規格外」旅行記

中鉢明子

もくじ

- 005 chapter 1
旅のはじまり
恋に破れてデンマークへ
2002 July_2003 March
- 031 chapter 2
ニューヨーク、
ハーレムでの生活
2005 April_2006 April
- 043 chapter 3
西アフリカの玄関、
セネガルで
2006 April
- 065 chapter 4
ガンビアからギニアへ
2006 May

chapter 5	079
愛を知った国、マリ	
2006 May	

chapter 6	115
ブルキナファソから ガーナへ	
2006 May	

chapter 7	137
帰国 そしてミス・ユニバースに	
2006 July	

chapter 8	163
NO RULE, NO TROUBLE 中鉢明子の旅の知恵	

あとがき	188
------	-----

撮影・小堀篤信
ヘアメイク・森 麻実

装丁・太田竜郎(クロス)

構成・真柄恵理

編集協力・ホリプロ出版プロジェクト

中根 薫 (Executive Producer)

駒村壮一 (Publishing Producer)

菅野雅之 (Artist Manager)



chapter 1

旅のはじまり

恋に破れてデンマークへ

(2002 July～2003 March)

きっかけは大失恋！

まっ暗闇のアフリカの大地で野宿をしたり、ニューヨークの避難所暮らしを経験した私ですが、「初めての海外」だった時ももちろんありました。

初めての海外旅行はどういうきっかけで？ 英語をしゃべることはできたの？ 私が旅のお話をする時に、よく聞かれることでもあるので、まずは「初めての海外」の体験からお話したいと思います。

旅に出よう！ って思ったきっかけは、ありがちかもしれませんが、私にとってはかなりせつぱつまった状況だったんです。そう、2002年の春の終わり、大好きな彼にふられちゃったんです。

中学の時から大好きだった人で、大学1年の終わりに付き合うことができて、付き合ってから1年と数か月後、ふられてしまいました。その頃、雑誌の読者モデルをしていたのですが、無理なダイエットをしていたせいもあってリバウンドもしてしまって。もう最悪な状況でした。太るし、ふられるしで。

その時、父に以前、「大学の休みは2か月もあるんだから、海外に2週間ぐらいの体験留学にでも行ってみるか？」と言われたことを思い出しました。父の提案を聞いた当時は、彼とも絶好調だったし、読者モデルも楽しかったし、私は日本で充分！　って思っていたのでまったく耳に入らなかったのですが、そうだ、海外に行ってみよう！　って、急に思い直したんです。もし今の自分が英語をしゃべれたら、すぐカッコよくなれるんじゃないかと考えたんです。もちろん地元で彼と顔を合わせるのも、同じ空気を吸うのも悔しかったので、早くこの場から抜け出したい!!　という理由もありました。

それで、調子よく「お父さん！　前に留学はどうだって言ってたよね？」と切り出してみました。父は2週間ぐらいのつもりだったようですが、せつかくなら1年行きたいとお願いすると、驚きながらも許してくれました。

私の留学費を払い終わった直後、お父さんのお給料が下がったみたい。ぼやぼや悩んでいたらこの話はなくなるところでした。ラッキー！

行くと決まったら、なにしろ早く行きたい。状況が状況でしたし。本当なら英語を勉強したり、ステイ先をじっくり探したり心の準備をするものですが、父に許してもらっ

た翌日に大学の国際センターに「留学したいんです」と飛び込みました。

大学とコネクションがある留学先のリストを見せてもらいました。イギリスやアメリカの大学は学費が200万円から300万円かかる上に、宿泊先も食事も実費でした。そのリストの下にあったのがデンマーク。1年で学費100万円！ しかも学生寮で3食つき。超安い！

なぜデンマークの学費が安いかというと、税金国民負担率世界1位のデンマークの消費税はなんと25%！ その代わり基本的に学費がなしなんです。なので留学生も格安。父親にも相談すると、即決。デンマークに決めました。すごいスピードで決めたので、家に帰って母親に「デンマークって何語？」って聞かれて、そういえば何語だろう？ って。私、抜けてますよね。というかそのくらい海外についての興味も知識もまったくありませんでした。

国際センターの先生に聞いたら「デンマーク語ですよ」と。

その時、先生がおっしゃいました。「英語圏は英語ができて当たり前。中鉢さんの今の英語の実力でアメリカやイギリスに行くと、相手にしてもらえなくて辛い思いをするかもしれないよ」と。

でも、デンマークは英語を母国語としない世界中の国の中で、一番英語が話せる国だそうです。九州程度の小さな国土で、普段から英語に触れることが多いそうです。「それに英語を母国語としないデンマークの人たちなら、君の気持ちをすぐく理解してくれようとするよ。体育の専門学校だから英語の勉強に縛られることなく、スポーツを通してコミュニケーションで英語を学んできたらしい」とアドバイスしていただきました。その時の私は、母親が洋楽が好きな影響で英語は好きなのにまったく英語の成績が悪いという状況でした。TOEICやTOEFLの点数も持っていなかったし、英検もみんながとれる3級しかなかったんです。

英語は向こうに着いてから勉強すればいいや！　そう思って日本を後にしました。

その夏、成田空港での私は、すっかり映画の主人公になりました。これから始まる冒険にワクワクしっぱなしです。初めて握る外国紙幣、入国審査を華麗に済ませ、機上の人に。マレーシアで乗り換え、いよいよコペンハーゲンに到着しました。

「空港に着いたら学校に電話をしなさい」と言われていたことを思い出しました。飛行機に乗っている時間がとても長かったのに、夢と希望に浮かれて電話のかけかたを調べたり

もせずに空港に着いてしまいました。それに私、英語がまだまったくしゃべれません。あまり先のことを考えずどうにかなるさのタイプなので、こういうことがしょっちゅう起るんです。

仕方がないので、「i」のサインのインフォメーションカウンターに行つて、「ここ！

ここ！」と、日本語で学校の住所のメモを指差しました。すると、とにかくこの住所に行きたいということは通じたみたいでチケットを発行してくれました。受付の女性は英語で説明してくれたとは思いますが、私には何を言っているのかさっぱりわからないので“Thank you”と伝えホームに向かいました。それから先はそのチケットを人に見せ、尋ねながら先に向かいました。電車で2時間弱乗って隣のフン島に入り、バスを乗り換えること2回、運転手さんに「ここですよ」と言われ、バスを降りると学校のま前でした!! 着いちゃった! つて感動しました。できちゃった! なんとかなるもんだという、この時の成功体験が、後の私の旅への変な自信になっていったと思います。

留学先の学校「Gymnastikhøjskolen i Ollerup (オレロップ国民高等体操学校)」は、デンマークの国技であるデンマーク体操の体育専門のフリースクールでした。私は勉強が嫌

いで、体育が大好きだったので「ピッタリ！」って思いましたね。授業は体育の他に、英語と、デンマーク語の日常会話を学べるクラス、あとは選択授業で裁縫をとったりできました。

デンマークは個性をととても大事にする国です。また、アルバイトや旅行やボランティア活動などでどんなリーダーシップを発揮したかなどの経験が豊富なら、大学の入試や就職の時にいい評価を受けられるシステムになっています。この専門学校もそうでした。

そんな、個性を大事にするデンマークの考え方は、私の旅の仕方や人生にも生かされることになります。後になって、とてもいい留学先、そして学校を選んだと感謝することになりました。

たとえば仮装大会をすると、ひとりひとりのアイデアの意外さに驚きます。日本人の仮装といえばちょっと変な化粧してカツラかぶってイエーぐらいですが、デンマーク人はマスクして白衣着てゴム手袋をはめ、オペのシーンをする人がいたり、特殊メイク並みのレベルで顔面血を流すボクサーがいたり、発想力のレベルがケタ違いです。

授業のカリキュラムも独特です。ネイチャーワークの授業は、とにかく何キロも走ったり、サイクリングしたり、10メートルくらいある長いゴムシートを坂道に敷いて、シート

にシャボン玉の液を垂らし、さらにカラダにも塗って滑ったり。二十歳前後の生徒たちが全力で遊ぶ知恵を学ぶんです。

おもしろかったのが、デンマークのフリースクールというシステムは先生も生徒と一緒に寮生活をするんです。先生と生徒が寮生活をしながら、芸術、スポーツ、環境など、自分の関心のある分野に打ち込むことができるという学校でした。

英語はできなかったのですが、通じたらウレシイ。とにかく覚えた言葉はまちがえようがすぐに口に出して意思を伝えようという気持ちでいました。

友だちはすぐにできたのですが、最初のルームメイトに部屋を替わって欲しいと言われた時は、言葉が通じないということもあり、とてもショックでした。結局その子は寮生活になじめずに辞めてしまったのですが、ルームメイトと部屋をシェアすることにトラウマを抱えてしまいました。けれどその後に入ったスロバキアのミラとはすごく仲良くなれました。

後期に入ったタイミングで、ルームメイトが代わります。後期からは新しい生徒も入って生徒の半分が入れ替わります。先生がクジで決めてもいいし、前期から一緒の仲の良い

子と同じ部屋になってもいいというルールでした。ミラは卒業だったので、前回の苦い経験があったし、前期で仲良くなった子とルームメイトになろうかと思いました。でも日本人留学生のヨシ（男の子）に「中鉢ちゃんはどう英語ができるようになったから大丈夫だよ」と背中を押され、新しい子とのルームシェアに、新たな出会いにもう一度挑戦してみようと思いました。そしたらそのコとは最高の友だちになったんです。

同い年のfatime（ファティエム）。彼女とはいつも一緒でした。買い物に行ったり、週末は彼女の両親に会いに行ったり、英語や体操を教えてもらいました。卒業パーティーで私がプレゼントした浴衣を着て「アキコ！ 素晴らしい思い出を本当にありがとう」とみんなの前で言い、ギターの弾き語りをしてくれた時は涙が止まりませんでした。

背中を押してくれたヨシに「中鉢ちゃん、よかったね」と言われ、やっぱり新しい子とルームシェアしようという勇氣を出したことで、トラウマも消えましたし、本当に素敵な寮生活を送ることができました。

デンマークには「性の先進国」というイメージがあるかと思います。「コウノトリが連れてくる」という教育はせず、小さい時からどうしたら子どもが生まれるのかといった性

教育をちゃんとする国でした。

そんなデンマークにビックリするような寮の慣習があったんです。

女子寮の廊下に「ワンナイトスタンド」というボードがあつて、一夜限りのカップルの名前を書いて発表するんです!! まれに同じカップルがワンナイトを重ねた時は、1、2、3、4……と回数を書き足したりして。さらに「カップルボード」というのもあつて、そこにはワンナイトから結ばれて付き合うことになったふたりの名前が!! 週末のディスコの次の日の月曜は掲示板を見に行くのがちよつとした楽しみになっていました。

そんな聞きしに勝るデンマークのフリーっぷりは、日本の大学生活しか知らなかった私にとって、それはそれは衝撃的でした。夜の12時くらいを過ぎると、モザイクなしのポルノがテレビで普通に流れますし。首都コペンハーゲンの博物館には性の博物館があり、性の先進国と言われる所以を実感しました。ちなみに性の博物館には日本のちょんまげ時代のエッチ本が保管されていました。どうやら日本は裏の性の大国らしいです。